

準天頂衛星システムサービス パフォーマンススタンダード/ユーザインターフェース仕様書 共通編、衛星測位サービス編 ご意見/ご質問回答

準天頂衛星システムサービス パフォーマンススタンダード/ユーザインターフェース仕様書

①共通編、②衛星測位サービス編 (ドラフト2014年2月25日版)

のドラフト版公開に伴い、2/28～3/17の期間にご意見・ご質問を募集致しました。

多くの方のご意見・ご質問をいただき、誠にありがとうございました。

今後も以下のドキュメントを順次公開してまいりますので、引き続き皆様のご協力の程、
よろしくお願い致します。

③サブメータ級測位補強サービス/災害・危機管理通報サービス編

④センチメータ級測位補強サービス編

⑤衛星安否確認サービス編

⑥測位技術実証プラットフォームサービス編

No.	文書名	項番・図番	ご意見・ご質問	回答
1	パフォーマンススタンダード 共通編		インフラ側サービスの保証はどのようにされ、サービス水準未達の場合にはどのように是正処置がとられるのか。サービス水準についてのチェック頻度等はどうなるのか。	パフォーマンススタンダードに記載した性能は日々チェックをして必要な是正を行います。性能は、サービスアベイラビリティの範囲で保証します。
2			初号機と2号機以降のRFの仕様、航法メッセージの仕様は異なったままなのか。	初号機と2号機以降のRF仕様は異なったままです。初号機の航法メッセージ仕様は、JAXAから準天頂衛星システムサービスに運用が移管されるタイミングで変更します。
3		3	準天頂衛星システムとは何かを示すために、QZSSの目的（あるいはミッション）、機能等を記載願いたい。それらが他の文書に記載されるのであれば、その文書を明示願いたい。	QZSSの目的は、パフォーマンススタンダードに記載したサービスを提供することです。このサービスを実現するシステムとしての説明は、パフォーマンススタンダードに記載していると考えております。
4		3.1.2、3.1.3	サブメータ級やセンチメータ級の測位補強サービスにおいて、精度と初期捕捉時間(TTFF)の目標値とその条件、またその実現のための具体的な方法の方向性、地上(Open Sky)での信号強度等の実装レベルでの仕様展開は、なされるでしょうか。	サブメータ級やセンチメータ級の測位補強サービスの仕様については検討中であり、今後公表していきます。
5		3.1.2、3.1.4	簡易メッセージ配信を災害・危機管理通報、メッセージ通信を衛星安否確認という名称にするということは、平時における民生利用が削除されたのか。	両サービスの名称が似ていることによる混乱などもあり、主な目的に適した名称を付けたもので、平時の民生利用を制限したものではありません。詳細は各サービス編にて確認願います。
6		表 3.2-1	衛星安否確認サービスはブロックⅡGの1機のみとなり不安であるため、災害時に使えるバックアップ衛星を考慮願いたい。	現状では、ブロックⅡGは1機体制であり、バックアップ体制は取ることができません。
7	パフォーマンススタンダード 衛星測位サービス編	3.1	主要都市における24時間の仰角変化を示し、サービス範囲も仰角特性とともに示してもらいたい。	仰角については、任意の経緯度で確認できる無料アプリを開発しており、近いうちに公開します。サービス範囲について、現状は最低仰角を示しており、静止衛星も含めたサービス範囲は静止衛星位置決定後に反映します。
8			北海道の一部が仰角60度の範囲に入っていないように見えますが、国内で60度以上の高仰角サービスが受けられない地域があるでしょうか。	図では仰角60度の線が北海道を横切っていますが、北海道を含め日本全国が仰角60度以上の高仰角サービス地域となっておりますので図を修正します。
9		3.2.1	SIS-UREの2.6mはGPS/BlockIIIの1m、Beidouの2.5mよりも低く競争力に欠けるので、改善するべきではないか。	サービス仕様としては2.6mとなっておりますが、準天頂軌道衛星で1.0m、静止衛星で1.5mを目標値として改善していくことにしています。

10	パフォーマンススタンダード 衛星測位サービス編	3.3.1	衛星 1 機が不具合により 1 機ごとのアベイラビリティを満足できない場合、例えば不具合等により長期の機能停止となった場合コンステレーションアベイラビリティはどこまで低下するのか。2 機の場合どうか。	アベイラビリティは、衛星に不具合等で長期の機能停止が発生した場合に冗長系へ切り替える確率や時間を考慮した数値です。
11		3.7(2)	座標系について、WGS84に対して2cm以内ではなく、最新のIGSxx (xxは年度)に対して2cm(95%)以内とするべきではないか。	衛星測位サービスは、GPSと組み合わせて測位を行うサービスのため、GPSの座標系であるWGS84に近づけるよう管理することになっています。
12			サブメータ級とセンチメータ級の測位補強サービスについて、座標系について別途記載されるのか。	サブメータ級とセンチメータ級の測位補強サービスについても各サービス編で座標系について記載します。
13	ユーザインタフェース仕様書 衛星測位サービス編	3.1.1-1	ブロック I のL1CP の変調方式は、ブロック II 運用開始後もBOC のままですか。	ブロック I のL1CPの変調方式は、ブロック II 運用後もBOCのままです。
14			ブロック II でL1の占有帯域を広げた理由は何でしょうか。	米国がGPS IIIから帯域幅を30.69MHzに広げたため、日本もこれに合わせて広い帯域としました。
15			IMESの仕様については、どうなりますか。	準天頂衛星システムでは、IMESのサービスを提供しませんので、仕様を作成する予定はありません。